中国

トランプ政権の対中通商政策

米国との交易交渉は、エネルギー、対中輸出規制の行方に要注目

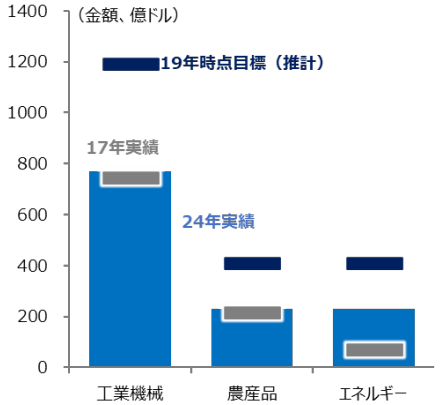
政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 第1段階の合意（中国の米国からの輸入増加目標）

分類	19年時目標（17年比）
工業製品 工業機械、電子機器・設備、医薬品、航空機・自動車、光学医療設備、鉄鋼品など	**＋448億ドル**
農産品 穀物、食用肉、食料品、水産品 など	**＋195億ドル**
エネルギー 液化天然ガス、原油、石油精製品、石炭	**＋339億ドル**
サービス 知的財産権使用料、旅行、金融サービス、クラウド関連サービス など	**＋251億ドル**
合計	**＋1,233億ドル**

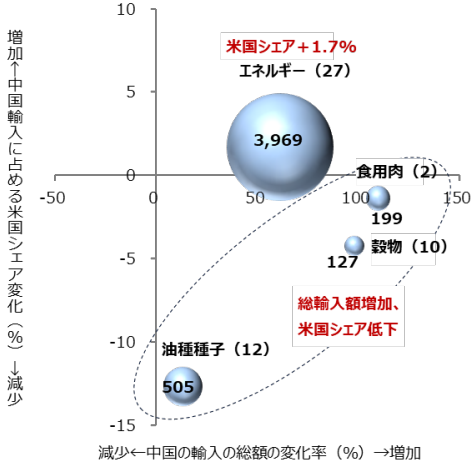
出所：ジェトロより三菱総合研究所作成

2 合意対象品の米国からの輸入



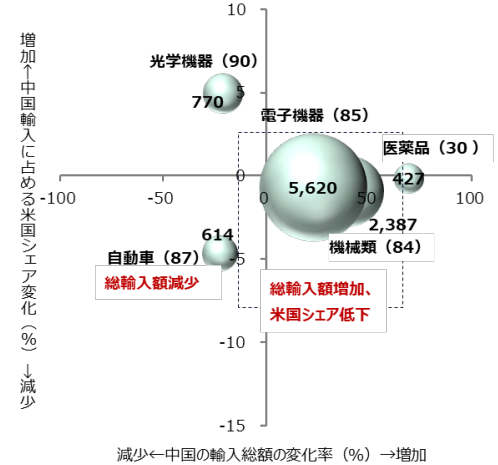
注：工業機械は、HSコード28～30、33、44、73、84、85、87、90、農産品は同2、3、8、10、12、21、23、41、エネルギーは同27を使用して、推計。
出所：ジェトロ、Macrobondより三菱総合研究所作成

3 中国の食用肉・穀物・エネルギー輸入の17年から24年の変化



注：バブルサイズは総輸入額（億ドル）、括弧内はHSコード。デフレータで実質化。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

4 中国の主な工業製品輸入の17年から24年の変化



注：バブルサイズは総輸入額（億ドル）、括弧内はHSコード。デフレータで実質化。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

中国向け通商政策の概要

- トランプ大統領は、移民や合成薬物の流入抑制を目的とした関税引き上げとは別に、中国向け通商政策で①トランプ第１次政権時に合意した通商協定順守の検証、②通商法301条に基づく追加関税の検討、③関税率を左右する中国とのPNTR（恒久的正常貿易関係）の評価を指示している（4/１期限）。

今後の展望

- ①の通商協定では、公正な通商関係に向けた指針と併せて、中国の工業製品、農産品、エネルギー、サービス輸入に占める米国輸入の拡大目標（19年時点の17年実績からの増加目標）が設定されていた（図表1）。
- 24年の当該品目の米国からの輸入実績は、17年並みにとどまり、19年目標を大きく下回っている（図表2）。本協定には、米国側要因による目標未達時の協議規定があるが、就任早々、本協定順守の検証を持ち出したことからは、本協定への合意を盾に中国へ輸入拡大を迫るトランプ大統領の意向が感じられる。
- 大幅な関税引き上げの回避に向けた第一歩として、農産品の輸入拡大が考えられる。主要輸入農産品である油種種子、穀物、食用肉の総輸入額は17年比で増加している一方、米国シェアは低下しており（図表３）、シェア調整による米国からの輸入拡大は容易と思われる。
- トランプ大統領の化石燃料増産意向のもと、中国のエネルギー輸入は主要な交渉対象となろう。米国からのエネルギー輸入は堅調に拡大、17年比、米国シェアが高まっている（図表3）。この間、ロシアからのエネルギー輸入も拡大しており、今後、ロシア関係も考慮に入れた通商・外交両面での交渉となろう。
- 工業製品の輸入拡大には障壁がある。工業製品には、中国の供給力向上から総輸入量が減少している品目（例：自動車）、中国の輸入ニーズにもかかわらず対中輸出規制から米国シェアが伸び悩んでいる品目（例：電子機器）がある（図表４）。今後、中国の「供給力強化方針」、米国の「対中輸出規制の厳格度」といった輸入拡大の障壁の在り方も含めた交渉となろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.